

平成30年度第3回京都府公民連携プラットフォーム

笠置駅周辺地域観光資源の活用手法について

2018年11月13日

笠置町 商工観光課 小林 慶純

1. 笠置について

2. 観光資源について

3. 笠置町の取組みについて

4. まちづくりについて

5. 民間企業ヒアリングについて

笠置について

笠置町の概要

京都府相楽郡笠置町は、京都府の南端に位置し、東は南山城村、西は木津川市、北は和束町、南は奈良県奈良市に接している。駅から徒歩で主要な観光・レジャースポットにアクセスできる利便性が、日帰り又は週末を利用して訪れるハイキングやカヌー、ボルダリングなどのアウトドアスポーツ愛好者にも人気がある。

笠置町

基本情報

所在地：京都府相楽郡

面積：23.52 km²

人口：1,347人（2018年9月1日現在）

アクセス



JR天王寺駅から関西本線で約65分「笠置」駅下車

電車で



国道24号線山城から国道163号線で約14km

お車で

京奈和自動車道 山田川I.C.から約30分



古来信仰の地として崇められた、笠置寺と磨崖仏

笠置寺が位置する笠置山の巨岩は約2000年前から自然信仰の対象となっていました。境内には本坊や鐘楼、十三重塔などが建ち、敷地の奥にある1周約800mの修験場には磨崖仏をはじめ巨岩が点在している。参拝はハイキングコースとしても知られており、特に秋にはもみじが見事に色づき山一面を赤く染める。

笠置町の概要

相楽東部3町村（笠置町、和束町、南山城村）は広域連携協議会を設置し、業務連携に向けた取り組みを行っている。それぞれの資源（アウトドア、茶畑、道の駅等）を拠点に観光誘客の増加を推進しており、周遊性とリピート性の向上による域内滞在時間の長期化や観光消費額の増大が期待できる。



笠置のみどころ

笠置では四季折々に彩りを変える山々と巨岩がつくりだすダイナミックな景観が楽しめる。



勸請縄行事（1月1日）

飛鳥路区にある布目川に悪霊除けとされる約30mの注連縄が渡される行事。京都府の無形民族文化財にも登録されている。

さくらまつり（3月下旬から4月上旬）

笠置駅周辺から木津川の河川敷一帯にかけて約3,000本の桜が一斉に咲き誇る。日本の桜名所百選にも選定されている。



もみじまつり（11月第3日曜日）

もみじの名所として知られる笠置寺内のもみじ公園で開催されるまつり。11月は夜間のライトアップもされている。

全国ご当地鍋フェスタ（12月第1日曜日）

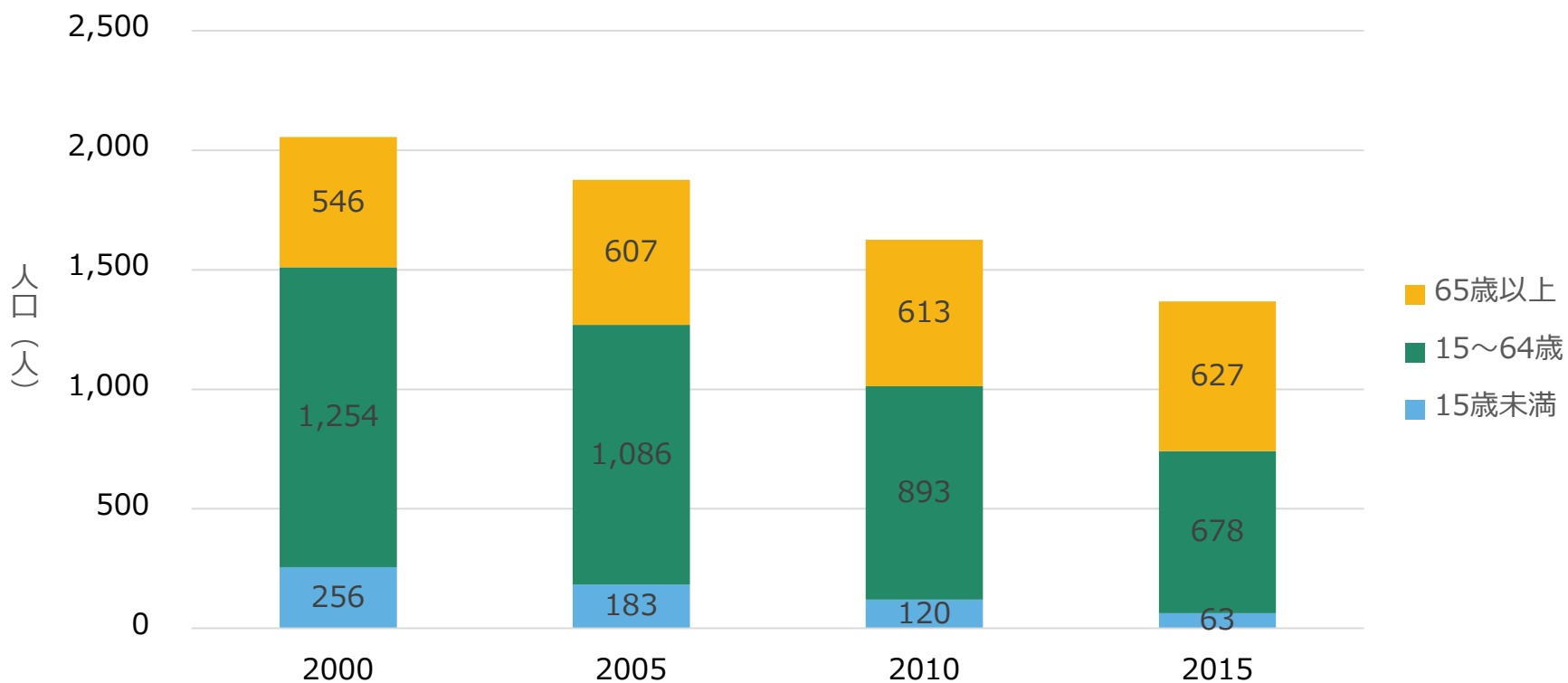
全国のご当地鍋を一堂に味わえる人気の鍋フェスタ。来場者の投票によってナンバー1の鍋を決める「鍋-1グランプリ」も開催される。



人口

笠置町の人口は、2000年に2,000人を超えていたが、2015年には1,500人を割り込んでいる。また、65歳以上の高齢者の割合が上昇している。

笠置町 年齢3区分別人口の推移

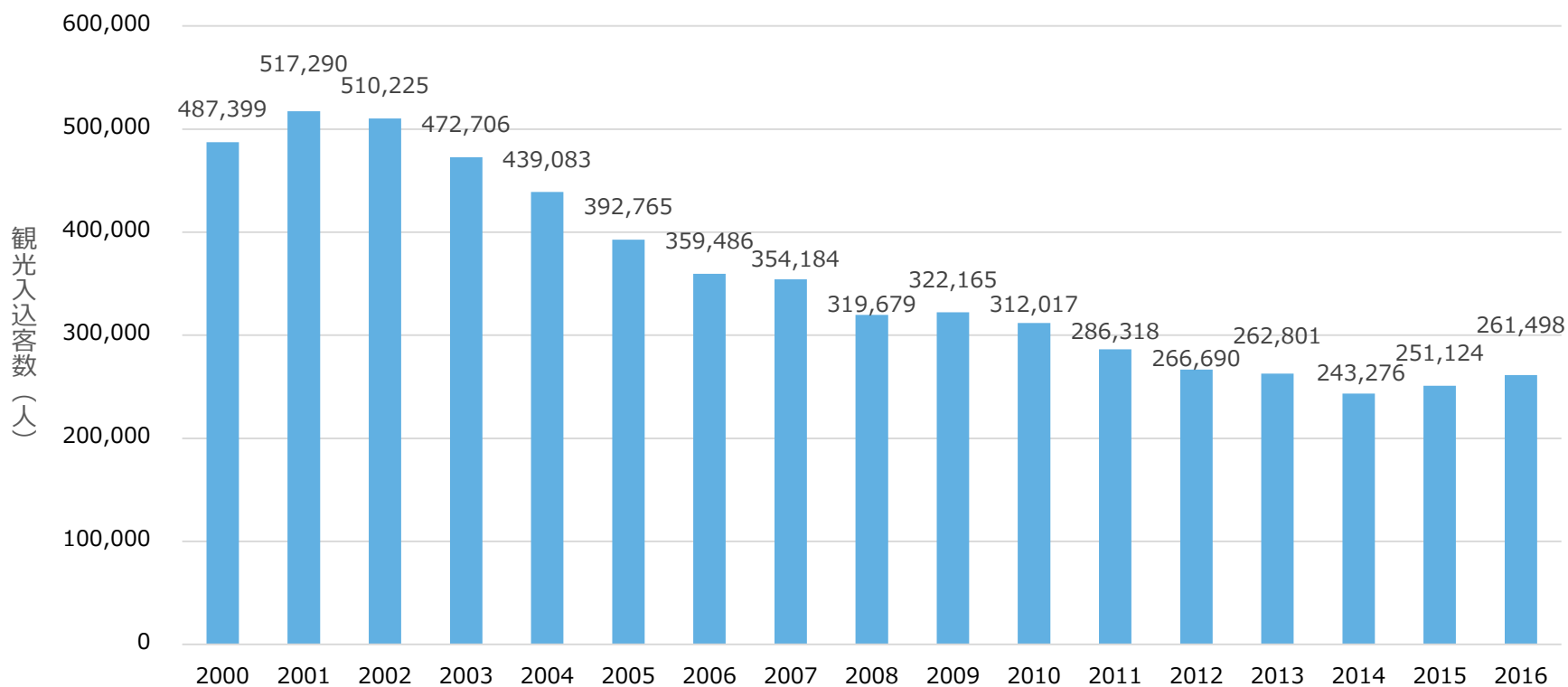


出典：国勢調査

観光入込客数

笠置町の観光入込客数は、2001年に年間50万人を超えていたが、それ以降は減少傾向にあり、現在は年間25万人前後にとどまっている。

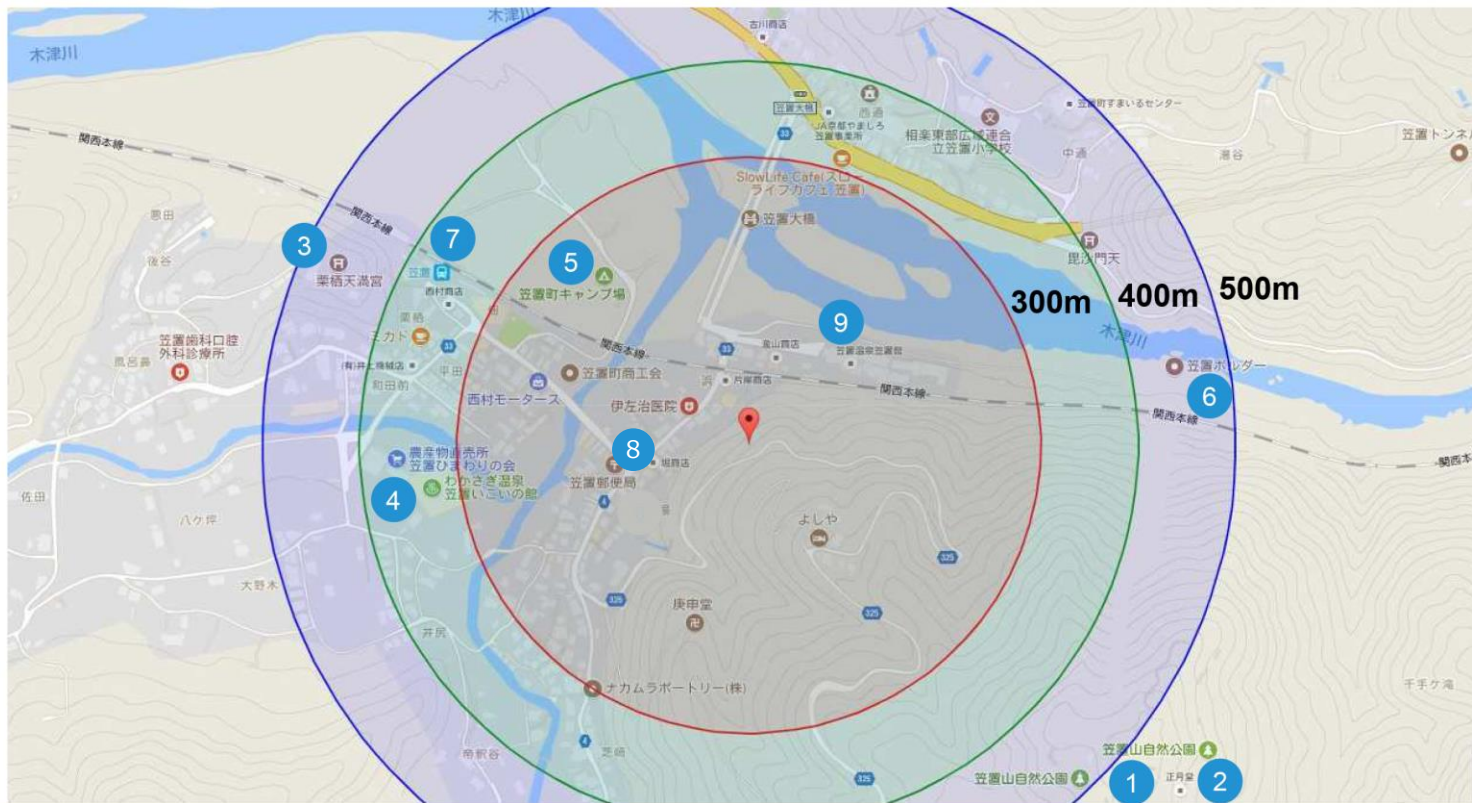
笠置町 観光入込客数の推移



出典：京都府統計ナビ・観光入込客数調査

周辺観光施設

笠置駅から徒歩圏内に観光資源が集積しており、キャンプ場、ボルダリングフィールドなどテーマ性の強い観光資源が存在している。



- 1 笠置寺
- 2 正月堂
- 3 栗栖天満宮

- 4 いこいの館
- 5 キャンプ場
- 6 ボルダリング、カヌー

- 7 JR笠置駅舎
- 8 笠置館
- 9 笠置温泉笠置旅館

笠置の強み

笠置町は、笠置寺などの歴史的な資源があるほか、観光資源の集積が高いことなどが強みといえる。

強み（内部要因）	弱み（内部要因）
<ul style="list-style-type: none">笠置駅から徒歩圏内に観光資源が集積テーマ性の強い観光資源が存在ハイキングコースやジョギングコースが設定されている各方面から自動車でのアクセスは容易	<ul style="list-style-type: none">施設の一体的な管理運営ができていない飲食施設や低価格の宿泊施設が少ない未活用の施設や空き家が多い大雨時にはキャンプ場が浸水し利用困難国道163号からの進入路が狭い鉄道の運行本数が少ない
機会（外部要因）	脅威（外部要因）
<ul style="list-style-type: none">訪日外国人旅行者の増加2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催ライトアウトドア市場の増加ボルダリングへの注目度の高まり近隣に集客力のある観光資源・施設が立地星野リゾート、お茶の京都DMOなどと連携により相乗効果が期待	<ul style="list-style-type: none">町人口の減少と高齢化近隣の温浴施設の増加コンセプトが似ている施設が近隣に存在

観光資源について

観光資源

笠置いこいの館

概要

基本情報

- ・ 名 称： 笠置いこいの館
- ・ 所在地： 京都府相楽郡笠置町大字笠置小字隅田24番地
- ・ 開館年： 平成9年3月31日（条例制定）
- ・ 構 造： 鉄筋コンクリート造・3階建て
- ・ 敷地面積： 10,187.14㎡
- ・ 建築面積： 2,482.16㎡
- ・ 延床面積： 3,259.6 ㎡
- ・ 所有者： 笠置町
- ・ 管理者： 株式会社フェイス（指定管理）
管理期間：2018年4月～2020年3月

利用料金

施設	定員	料金		
		大人	子供	70歳以上
温浴施設	251人	800円	400円	650円

施設	定員	料金(税抜)				備考
		1面半日	1面1日	2面半日	2面1日	
ゲートボール場	2面	2,000円	4,000円	4,000円	8,000円	スティック・ボール等無料

■概観イメージ



■ゲートボール場



■お食事処 わかさぎ



■温泉(大浴場)



■温泉(露天風呂)



出所：笠置いこいの館ホームページ、笠置町商工会ホームページ

笠置キャンプ場

キャンプ場の状況

笠置町キャンプ場の状況について

- ・ 名称：笠置キャンプ場
- ・ 所在地：京都府相楽郡笠置町笠置佃46
- ・ 所有者：公共河川敷を町が占用許可を受け、一般社団法人観光笠置が二次占有
- ・ 管理方法：一般社団法人 観光笠置が運営管理
- ・ 笠置キャンプ場は、オートキャンプを楽しむ人、デイキャンプに訪れる人が主体
- ・ 場所はJR笠置駅から徒歩5分程度の笠置大橋の下流に広がる木津川河川敷
- ・ 毎年混み合うのは、5月の連休と、夏休み期間中の土曜日曜（特にお盆の時期）
- ・ 車で河川敷まで乗り入れ可能（自動車は最大で300台程度は収容可能）
- ・ 近くでカヌー、ポルダリングが楽しめる
- ・ 天然温泉「笠置いこいの館」は、キャンプ場から徒歩約10分のところにある
- ・ 現状、オートキャンプ、駐車場、デイキャンプ、BBQなど、エリア分けが曖昧
- ・ 現状、グランピング事業者の参入なし

キャンプ場の利用

笠置町キャンプ場の利用料等について

- ・ 利用料（清掃協力金）1日当たり
大人（中学生以上）：500円
小学生：300円
小学生・中学生・高校生の団体30人以上：1人150円
キャンパー泊：大人600円/1人
- ・ 予約：不要（いつでも入場可能）
- ・ テントやキャンプ用品等の貸し出し：なし
- ・ キャンプ場内での花火：禁止
- ・ 施設
簡易水洗トイレ（和式）：2ヶ所
水道（流し台）：1ヶ所
- ・ 問い合わせ先・施設管理者：一般社団法人観光笠置



カヌー・ボルダリングフィールド

カヌースクール及びツアーの運営会社

運営会社について

- ・ 運営会社：有限会社フジタカヌー <http://www.fujitacano.com/index.html>。笠置町にあるファルトポート(折りたたみカヌー)等のメーカーであり、カヌースクールとカヌーツアーを企画運営している。
- ・ フィールド：国交省の水辺の楽校に登録されており、他事業者も参画が可能。

カヌースクール開催状況等

カヌースクールについて

- ・ 内容：カヤックの基本操作と約6kmのツーリングを体験
- ・ 場所：ゲレンデは流れの穏やかな木津川中流域(京都府相楽郡笠置町)
- ・ 時期：春分の日から11月末までの土、日、祝日
(平日や期間外でも大人5名以上の予約があれば開催可能)
- ・ 料金：大人¥10,800 子供¥7,560(小学生以下) ※消費税込み
カヤック1式レンタル(艇、ライフジャケット、パドル)と昼食(1ドリンク付)
わかさぎ温泉入浴料、傷害保険代含む

カヌーツアー開催状況等

カヌーツアーについて

- ・ 年間30回程度のツアーを実施している。笠置町だけでなく、琵琶湖、奈良吉野川などのツアーも企画運営している。なお、ツアーの大半が笠置町外での実施。

ツアー例

日付	コース	ツアー内容	料金
2017年 10月21日 (土)	木津川 笠置～木津 日帰りツアー	木津川カヌースクールの次のステップとして最適な約13kmのツーリング。カヌースクールのゴール・銭司からさらに下流へ進む。加茂の恭仁大橋から約6km先にある木津の泉大橋を目指す。	会員¥7,000 一般¥8,000 ※小学生以下半額 レンタル： 1人艇¥3,000 2人艇¥5,000

ボルダリングの状況

笠置町のボルダリングの状況について

- ・ 当該フィールドは国所有であり史跡名勝地に指定されている(工作物の設置等は不可)
- ・ 笠置大橋上流に広がるボルダリングエリアでは、大小の岩がゴロゴロしていて、関西屈指と言われている。ランディングも良く、多彩なコースは初級者から上級者まで楽しむことができる。
- ・ 河川敷にある「笠置ボルダー」と呼ばれるボルダリングフィールドはボルダリングに親しむもの間では有名なフィールド。河川敷の巨石群には120以上の課題が設定され、初心者からブ洛克ライマーまで楽しめる。
- ・ 現在笠置町を訪れているのはボルダリングのコアなファンに限られている。
- ・ 2017年公開の映画「笠置Rock!」が、笠置町のボルダリングのプロモーションに貢献することが期待される。

ボルダリングフィールドの利用

笠置町のボルダリングフィールド利用料等について

- ・ 利用料：無料(自由使用)
- ・ 問い合わせ先：一般社団法人観光笠置



JR笠置駅舎

JR笠置駅舎

基本情報

- ・ 名称：JR笠置駅複合施設(駅舎)
- ・ 所在地：京都府相楽郡笠置町大字笠置小字44番地
- ・ 所有者：笠置町
- ・ 構造：木造平屋建て瓦葺
- ・ 延床面積：156.51㎡(付属施設除く)
- ・ 管理方法：指定管理(平成29年4月1日～平成34年3月31日)
- ・ 運営会社：笠置まちづくり株式会社

主要施設

- ・ 施設：商業施設部分(カフェ・雑貨販売・ネイルサロン)、共有部分(待合部分含む)、鉄道施設部分、付属施設(トイレ33.8㎡)

鉄道乗車人員

乗車数は過去5年間で漸減傾向にある。定期使用者の減少率は20%、その他の減少率は約19%となっている(いずれもH23年度比)

(千人)

駅名・種別	年度	H23	H24	H25	H26	H27
	乗車		117	108	104	98
JR笠置駅	内)定期	80	72	69	66	64
	その他	37	36	35	32	30

出所：京都府統計書「鉄道乗車人員」



笠置町の取組みについて

笠置町の取組み

■クリエイターズキャンプ

笠置町を舞台にした映画「笠置ROCK!」の監督が中心に活躍している「京都映画派」が企画した「クリエイターズキャンプ」が9月に笠置キャンプ場で開かれた。映像や音楽クリエイター・役者など約60人が集まり、創作活動を通じて笠置町の可能性を探る意見が交わされたほか、ボルダリングエリアなど町内の見どころを巡り、夜は「笠置ROCK!」も上映された。



主催：京都映造派

協力：相楽東部未来づくりセンター・ちきちき映画祭・studioTMS・BBQ TEBURA

西日本で一番人口が少ないけど魅力がたくさんある「笠置町」そんな田舎でBBQしながらクリエイターのみんなで語り明かしたい。そしてそこから何が生まれるのかみんなで考えたい。という思いで企画しました。



笠置町の取組み

■A&Fカントリー様の課外研修



スタンドアップパドルボード(SUP)はハワイ発祥のマリンスポーツで、サーフボードよりも少し大きめの板の上に立ち、パドルを漕ぎながら波乗りしたり海の上を散歩するといったことが楽しめる水上アクティビティです。スタンドアップパドルボード(SUP)はエクササイズ効果があるとも言われており女性にも人気のスポーツです。



笠置町の取組み

■ 乗用タクシーが荷物を集荷する貨客混載

佐川急便は、山城ヤサカ交通（京都府京田辺市）と宅配事業の生産性向上、地域交通インフラ活性化を目的に貨客混載事業を展開することで合意し、10月29日から乗用タクシーを活用した宅配事業を開始した。

宅配便の荷物の集荷を乗用タクシーで行うことは全国で初めて。今回の貨客混載事業は山城ヤサカ交通の乗用タクシーの荷室に、佐川急便の宅配荷物を積み込み、旅客事業を行う以外の時間帯に荷物を配達する。



まちづくりについて

まちづくりが目指す姿

笠置町まち・ひと・しごと創生戦略

～世代を超えて、みんなが交流し健康で安心して生活しやすく、暮らしてみたいコンパクトなまち～

まち・ひと・しごと創生戦略

- 笠置町まち・ひと・しごと創生戦略(平成28年1月)においては、笠置町の強みとして
 - 温泉、キャンプ場、グランドゴルフコース、ボルダリング、木津川のカヌーといった自然を活用したレジャースポット
 - 笠置寺の弥勒磨崖仏や後醍醐天皇行宮遺跡をはじめ、重要な歴史遺産等の「豊富な観光資源のあるまち」を位置付けています。
- 基本目標の一つとして「笠置町への新しいひとの流れを創出する」を設定
- 交流の拡大という枠組みの目標として観光入込客数300,000人/年
- 具体的施策として、①観光・集客資源の創出・整備、②観光商品の創造・販売、③観光・交流情報発信の仕組み等の構築を上げています。

- 笠置町が有する豊富な観光資源を、「笠置町への新しい人の流れを創出」し、交流の拡大を促進するための施設・場として、これらの取組に活用していくことが求められています。

方針等

- 「管理者・所有者が異なり、徒歩圏内に集積した観光資源を一体的に開発し有機的に結びつけることで魅力的なコンテンツとして連動させ、交流の拡大を図る」
- 「リゾート・レジャー、宿泊施設運営会社等にマーケットサウンディングを実施し、参画条件の検討および参画意欲の醸成を図る」

まちづくりの方向性

- 笠置町は笠置山とその山麓の木津川一帯が史跡名勝地として国から指定され、史跡探勝の**観光地として発達**していた。
- しかしながら、地域商業の停滞と魅力の喪失、居住人口の減少による**市街地の空洞化や高齢化**が進み、まちとしての求心力が失われている。
- **まちの資産価値を高める開発**を実施する事業主体である「まちづくり会社」の強化が求められている。

地域に関わる企業・行政のパートナーシップに基づき、まちづくりの実現に向けて果たすべき役割りを踏まえ、地域経済の活性化を図る。



官民連携による地域資源の一体的な運営

いこいの館、キャンプ場等地域資源の一体的な運営

いこいの館

管理者：(株) フェイセス



笠置キャンプ場

管理者：(一社) 観光笠置



JR笠置駅舎

管理者：笠置まちづくり(株)



一体的管理運営

民間事業者

まちづくりの効果と課題

笠置町では平成28年度に笠置まちづくり会社を設立し、官民連携の取組みを進めているものの、個別案件を推進する人材や資金の不足などに課題があり、地域におけるPPP/PFI事業の案件形成機能の強化・充実が求められている。

想定される効果

- 民間事業者による運営の効率化や一体的な管理運営による施設間の連携強化
- 施設の魅力を高めることによる観光入込客数や宿泊客数の増加
- 町の中でお金を使える機会を増やすことによる経済活性化

想定される課題

- 事業への参画可能性を有する事業者の発掘
- 民間事業者が参画可能なスキーム・条件の検討・調整（施設の改修費用の負担等）
- キャンプ場における河川空間のオープン化との関係整理（河川敷地の占用に関する規制緩和）

コンセプト案 1

アウトドアを軸にした町内施設の活用により、町内での観光、消費を目指す。

エコツーリズム



自然をフィールドにしてアクティブに過ごす

カヌー、ボルダリング、グラウンドゴルフなどのスポーツを楽しむ

笠置の自然を眺めながらスポーツを楽しむ（ジョギング、サイクリング等）

観光客を町に誘導するアクティビティプログラムの開発

温泉でゆったりする

アクティブに過ごした疲れを温泉で癒やす
疲労した体をケアする（マッサージ等）



家族や仲間と楽しいひとときを過ごす

河川敷でのバーベキューを楽しむ
キャンプ場や簡易宿泊所で手軽に宿泊する



コンセプト案 2

健康増進や心身の機能回復を目的とする「ヘルスツーリズム」をテーマとして、関連するコミュニティ・ビジネスの創出を目指す。

ヘルスツーリズム



自然をフィールドにした健康増進

グラウンドゴルフ、ヨガなどの手軽な運動を楽しむ

森林セラピーや健康ウォーキングなどのプログラムを楽しむ

笠置温泉で心身の機能を回復

天然温泉による湯治で疲れた体を癒やす
マッサージ、エステ等のサービスで体を整える



健康食による食生活の改善

地元の素材を使った健康食で胃腸を整える
笠置の郷土料理を楽しむ（雉鳥料理等）



コンセプト案 3

仕事と休暇を組み合わせた「ワーケーション」など新しい働き方を実現できる場として町内施設を活用し、関連するコミュニティ・ビジネスの創出を目指す。

コミュニティビジネス



新しい働き方を実現する

IT環境の整ったサテライトオフィスで働く

働いている間は一時保育所等で子どもを預ける

仕事のストレスを解消する

笠置温泉でストレスを解消する
飲食施設や宿泊施設でゆったり過ごす



豊かな自然の中で休暇を過ごす

河川敷でのバーベキューを楽しむ
ボルダリング、ゴルフなどのスポーツを楽しむ



民間企業ヒアリングについて

民間企業ヒアリング（まとめ）

現段階で想定される事業概要を提示した上で、以下の項目について、民間事業者（開発事業者、温浴施設、キャンプ場運営企業等）からの意見・要望等の意向調査を実施した。

いこいの館（温浴施設）

- ・ 事業規模が小さく（想定される売上が少ない）、まちづくり事業への参画は困難
- ・ 設備改修が必要となるため、公共による施設整備が前提
- ・ 宿泊機能がないので、利用が限定的
- ・ 投資や出資は困難。あくまで運営管理を受託する範囲での参画
- ・ 専門性が異なり、温浴施設とキャンプ場の一括管理は難しい

- ⇒ 大規模な投資を行うような事業としては、認識されていない← 売上があまり期待できない
- ⇒ 設備改修等の費用負担を含めた事業形態（PFI）などは困難

キャンプ場

- ・ 必要経費しかとれない＝公共河川敷の占有（経済行為はできない）
- ・ キャンプ場としての高いポテンシャル（大都市からの近さ、周辺のアクティビティ）
- ・ 直火OK、車乗り入れ可、区画なし
- ⇒ 他にはない特徴（豪華化より強みを生かすほうがよい）
- ・ アウトドアメーカーのショップ、機材貸出、食材販売、初心者フォロー等可能性
- ・ トイレ、車進入路は、改善が必要

民間企業ヒアリング

① 観光資源への評価、事業概要に関する意見、要望

観光資源への評価については「駅に近い」、「笠置寺のポテンシャルが高い」との意見が多く、笠置町のポテンシャルに期待する事業者が多くみられた。

期待できる点

- ・ いこいの館（温浴施設）は事業を進める上での重要な拠点である。
- ・ 観光資源はJR駅に近く、売り方を工夫すれば可能性はある。笠置館や笠置寺のポテンシャルは高い。
- ・ 宿泊施設は、外国人バックパッカー向けが良い。
- ・ 京阪の商圈から1時間程度と利用者数の伸びが見込める。駅から徒歩10分以内と訪れやすさも魅力としてあげられる。

課題となる点

- ・ 歴史的観光資源に乏しく、『京都』という名称から受ける印象と乖離がある。アウトドアスポーツを中心としたコンセプトの印象を受けるため、市場参加者が限定されるイメージを受ける。
- ・ 温浴施設の泉質は良いが、設備の改修が必要。キャンプ場も設備や進入路、冬期の誘客が問題。カヌー・ボルダリングは競技人口が少ない。

民間企業ヒアリング

② 事業スキームに関する意見、要望

事業スキームについては「設備改修の費用負担」や「まちづくり会社への出資」は困難との意見もあり、指定管理等、従来型の官民連携を想定する事業者が多い。

期待できる点

- ・ 観光資源再開発へのコンサルティング業務や観光資源管理業務が考えられる。

課題となる点

- ・ 指定管理業者として、施設の運営管理に係ることは可能。設備改修の費用負担も含めた事業形態（PFI等）は困難と考える。
- ・ まちづくり会社への積極的な関与や出資等は困難である。あくまで、観光施設の運営管理を受託する範囲で参画を検討することになる。
- ・ 地方創生については関心があるが、都心中心の開発を進めているため、笠置町への投資は難しい。

民間企業ヒアリング

③ 本事業への参画可能性、課題

事業への参画可能性について、温浴施設に関する設備改修が想定されるため、施設の維持管理費用を懸念する事業者が多くみられた。

期待できる点

- ・ヘルスツーリズムのテーマで事業展開を行いたい。ソフト対策として、健康プログラム、健康増進研修が想定さる。
- ・事業性の面から見ると、現在の状況で参画することは難しいが、観光資源のポテンシャルは高いので、設備改修等の前提条件が整えば検討の可能性はある。

課題となる点

- ・ハード対策としては、老朽化施設の改修、インフラ整備が課題となる。
- ・設備改修の費用は町が負担する必要がある。いこいの館は、温泉設備（ボイラー、ポンプ、配管）の改修が必須であり、数千万円程度の費用がかかる。
- ・温泉を維持管理するには5年に1回の定期的な修繕が必要となる。受託管理の事業期間は最低でも5年間が必要である。
- ・マネジメントの知見を有する人材を登用する必要がある。

民間企業ヒアリング

④ 地域活性化や観光資源の活用アイデア等

地域活性化や観光資源の活用については「健康」や「教育」をテーマとする提案が多く、笠置町の立地や環境を生かしたアイデアが多くよせられた。

- ・町全体が高級老人ホーム、クアオルト、CCRCという位置づけにしてはどうか。これであれば他地区と差別化が図れる。全国的にはまだ本格的に取り組んでいるところはない。
- ・自動車を運転できない人をターゲットに考える必要がある。JRに事業への参画を促し、JRと連携した観光を促進するのが良いのではないか。和束町の星野リゾート施設や柳生地域（奈良県）と連携した観光を模索するのも良い。
- ・豊富な自然資源が観光に活用できることは間違いない。京阪商圈からの近さを強みに、より利便性を押し出していくべきでは。
- ・訪日外国人旅行者の目的は泊まることではない。コトの価値を高めていくことが重要となる。
- ・二拠点居住を考えるとワークラボをつくるのも面白いが、ビジネスで人口を増やすというモデルはレッドオーシャンという課題がある。
- ・山村留学の実施により人口を増やすことが期待できるのでは。その他、リビルディングセンター（建材リサイクル）などの拠点をつくることで雇用の創出も生まれる。アイデアの種をつくることが重要。